

# 実戦さながらに 防災訓練



テレビ、新聞等で大地震到来が予告されていたなか、八月八日の地震につづき、八月十五日の台風五号、六号と相次いで災害が発生し防災につ

いての関心がますます高まっています。  
市では、「防災の日」の九月一日、東海沖地震を想定し地震予知から災害発生後までの実戦的な総合防災訓練を実施しました。

市内六会場で、自主防災会を中心に市民一万八千人の参加のもとに警戒宣言の住民への伝達、住民等の事前避難、児童生徒等の退避、炊き出し、負傷者等の救護、給水、初期消火、防疫、消火、公共施設復旧などの訓練が行われました。

各会場で訓練が行われてい

た午前十時頃、とつぜん雷雨に見舞われ、実戦さながらの防災訓練でした。とくに東桂会場では、はしご車による団地の屋上からの救助訓練の途中であったので、びしょぬれで訓練を続けていました。



## 教訓を生かそう！

八月八日神奈川県西部を震源地とする地震では、山梨県も大きな被害を受けました。

この地震が発生した時住民の皆さんがどのような行動をしたか、今後の地震防災対策に生かすことを目的に、県がアンケートを行いました。

主な調査の結果  
一、火を使っていた家庭で直ちに火の始末をした人七七・一パーセントで、「地震

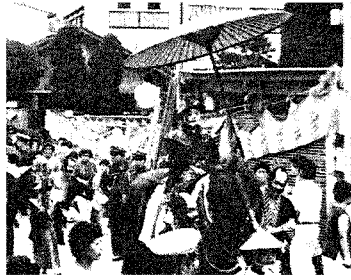
だ——火を消せ」という教訓が生かされていた。  
二、外へとび出した人は一〇パーセントと非常に少なくそのままとしていた人が五〇パーセントと多く、全体的に沈着冷静に行動した人が多かった。

多くの人は、地震時に適切な行動をしたようですが、東海沖地震が噂されている今日いま一度ふだんの心がまえとして必要と思われるものを見てみましょう。

- 1 家屋や塀などを点検し、弱い部分を補強しておく。
- 2 家具などが倒れないように金具で固定したり、置き方を工夫する。
- 3 火を使う器具設備の点検と整備をする。また、火気の周りは整理整頓しておく。
- 4 消火器や消火用水を用意し消火の方法を身につけておく。
- 5 救急医薬品を準備し、応急手当ての方法を身につけておく。
- 6 非常持ち出し品を準備しておく。
- 7 家族で防災について話し合い、避難場所や避難経路を確認しておく。
- 8 隣近所の人々と協力し合える信頼関係をつくっておく

## 昔ながらの衣裳を身につけ

### 華やかに大名行列



昨年、市の観光資源また商業振興事業を目的として十四年ぶりに復活した八朔まつり「大名行列」は、今年で二回目です。今年、新たに商店連合会から、お姫様と腰元一行六名の参加とともに、新調された大名かごが目見えし、行列に花を添えました。

行列一行は、赤熊（しゃぐま）、先箱（さきばこ）、大

鳥毛（おとりげ）、小鳥毛、後箱（あとばこ）、お籠、お具足箱（おぐそくばこ）等の奴さん、それに徒士（かち）、大将等のお侍いを消防団各分団員、拍子木（ひょうしぎ）、金棒（かなぼう）、御小姓（おこしやう）、鷹匠（たかしやう）、槍、鉄砲、弓組等を早馬町、下天神町、下町、新町、高尾町、仲町の小中学生が担当しました。

総勢二二〇名におよぶ行列は、「下にー下にー」と古式ゆかしく目抜き通りを練り歩きました。